

## 研究室だより

### 虹のキャンパスでのポストドク生活

岩本 政明  
 情報通信研究機構 関西先端研究センター  
 生物情報研究室  
 Tel: 078-969-2248  
 E-mail: iwamoto@po.nict.go.jp

私は、2001年6月から04年3月までの2年9ヶ月をハワイ大学マノア分校の Prof. Richard D. Allen (以下、Richard さん) の研究室でポストドクとして過ごしました。修士課程在学中、指導教官だった藤島政博先生に連れられて Allen 研を訪問する機会があり、当時ポストドクとして滞在していた石田正樹さん(現、奈良教育大)と富永貴志さん(現、MIT)にお会いして、自分も将来は彼らのようにここで研究がしたいと漠然とながら考えるようになりました。学位取得が見えてきた頃、ラボへの参加希望のメールを Richard さんに送ったところ、幸いにして良い返事をもらう事ができ、念願のハワイ行きが決まりました。



ハワイ大学マノアキャンパス

マノアキャンパスは、アラモアナショッピングセンターから車で10分ほど山側へ向かった高級住宅地マノア地区の入り口に位置します。多種多様な木々がある所に植えられ、芝生が敷き詰められたとても美しいキャンパスで、朝夕には裏手のマノア溪谷に虹がかかることからレインボーキャンパスとも呼ばれています。「ハワイで研究ができますか?」としばしば聞かれますが、ワイ

キキビーチに飽きた後はこれといって他に遊ぶところも無いため、おのずと研究に集中できます。また、春と秋にしか仕事ができない日本と違い、1年中さわやかな気候のハワイは研究生生活に最適の場所、まさにパラダイスだと思います。

Allen 研はマノアキャンパスの中央に位置する Microbiology Department の建物内にあります。Richard さん、ベテラン技術員の Marilyn Aihara さん、そして客員教授の内藤豊先生と、1-2名のポストドクで構成される小さな研究室です。Richard さんが研究教授であるためラボに学生はいません。内藤先生が筑波大を定年退官後、Allen 研に来られた10年前に現在のゾウリムシ収縮胞の生理学的研究がスタートしました。細胞生物学・形態学者である Richard さんと生理学者の内藤先生という攻め方も性格も全くの違う二人が機能し合い、多くの質の高い仕事が成されてきたことは周知の通りです。収縮胞はゾウリムシの最もダイナミックで印象的なオルガネラであるにもかかわらず、ハワイ大グループがプロジェクトを



毎週金曜日恒例のビアパーティー。誕生日祝いのレイをかけられご満悦の Richard さん(中央)。右が内藤先生、左が筆者。

スタートさせるまでほとんど手つかずの研究対象でした。現在でもゾウリムシ収縮胞を扱う研究室は他に見当たりません。ハワイ大グループによってこれまでに得られた生理学的・形態学的事実の蓄積と、ゾウリムシゲノムの解読が進んでいる今、収縮胞機能の分子レベルでの研究が期待されるどころです。

短い期間ではありましたが、二人の大ベテランとの共同研究は私にとって実に有意義で、且つとても楽しいものでした。このような機会を与えてくださり、いつも勝手な研究ばかりしていた私を最後まで温かく見守り、励ましてくださったRichardさんと内藤先生に心より感謝いたします。

## 研究室だより

### フランスでの研究生活

田中 みほ  
フランス国立農学研究機構 (Institut National de la Recherche Agronomique, INRA)  
レンヌ研究センター、植物病理部門  
Rhizosphere (根圏) 研究室  
現、帯広畜産大学原虫病研究センター研究機関  
研究員

フランスの西部、ブルターニュ地方の中心都市レンヌにある INRA レンヌ研究センターは、主に農作物の感染症や害虫被害に関する研究を行っています。Rhizosphere 研究室では、小麦の根に寄生する菌類とそのアンタゴニスティックバクテリアのインタラクションというテーマのもと、生態学、分子生物学、生化学など多方面からのアプローチで研究が行われています。原生動物の世界から一時離れ、カビとバクテリア相手にポストドク研究員として2002年8月から2004年7月までの2年間このラボで仕事をしてきました。研究室長以下、常任研究員1名、ポストドク2名、テクニシャン2名、それに短期研修学生が常時数名という小規模ラボですが、小麦畑でサンプリングに励む人、遺伝子実験専門の人、カビの培養シャーレを積み上げてひたすら観察している人、カビエキストラクトを作って生化学的解析をする人・・・となかなかバラエティーに富んでいます。メンバーは皆とてもフレンドリー。部門全体の雰囲気もアットホームで、毎朝10時の休憩時間には学生から部門長までカフェルームで濃いコーヒーを飲みながら週末やバカンスの予定、映画の話題などで盛り上がります(もちろんまじめに実験結果をディスカッションしている人達もい

ます!)

農業国フランスの国立研究機関とあって設備や研究活動に対するバックアップなどは申し分ないのですが、問題は英語が通じにくいという点です。研究室長クラスはともかく、テクニシャンや事務員ともなるとほとんど英語は通じず、最初の頃は物品の場所ひとつ聞くにもひと苦労。おかげでフランス語はだいぶ上達しました。



Rhizosphere研究室のメンバーと